

はじめての

シルバー
対応版

児童英検

編集協力:財団法人 日本英語検定協会

問題制作:笠木えりあ・牧 菜穂



はじめての児童英検 シルバー対応版

もくじ	2
はじめに	4
児童英検「シルバー」受験に向けて	6
1. ブロンズからシルバーへ	
2. シルバーの特徴について	
「シルバー」に適した学習方法	8
1. 単語の学習方法について	
2. センテンス理解の学習方法について	
アルファベットをおぼえよう	10
リスニングクイズ1	12
リスニングクイズ2	13
リスニングクイズ3	14
リスニングクイズ4	15
リスニングクイズ5	16
リスニングクイズ6	17
問題1 絵にあう文は？	18
問題2 返事をしよう	25
問題3 種類別ものえらび	29
問題4 スリーヒントクイズ	33
問題5 はじめはどの文字？	37
問題6 どっちの絵？クイズ	41
問題7 お話にあう絵は？	48
問題8 ふたりにきいてみよう	55
問題9 文字をえらぼう	62

も

く

じ

児童英検の基礎知識 66

児童英検の目的・特長
各グレードの出題内容

●財団法人 日本英語検定協会
英語に親しみや興味・関心をもたせ、
英語でのコミュニケーションを
楽しめる児童の育成を目的とした
「児童英検」を主催する財団法人。

問題のこたえと問題文 69

●笠木えりあ
アルクKiddy CAT英語教室講師。
神奈川県鎌倉市にて、
「E English School」主宰。

●牧 菜穂
アルクKiddy CAT英語教室講師。
鹿児島県鹿児島市にて、
「こどもクラブ」主宰。

児童英検とは・・・

1. グレードは3つ

「BRONZE(ブロンズ)」、「SILVER(シルバー)」、「GOLD(ゴールド)」の3つに分かれており、児童の年齢や英語学習歴によって選ぶことができる(各グレードの受験対象者の目安は6、66ページを参照)。

2. 合否のつかない結果表示

テスト結果は正答率で評価され、80パーセントを境に「次のグレードへ進むか」「同じグレードに再チャレンジするか」のおおよその判断基準となる。児童には、この正答率を山登りに例えてイラストとともに記載したレポートカードと、成績証明書が渡される。

3. グループか個人で受験できる

日本英語検定協会に「グループ会場実施登録」をしている英語教室などのグループが実施するグループ会場受験、もしくは全国主要都市でおこなわれている公開会場受験のふたつがある。

4. 試験は年に3回実施

6月、10月、1月の年3回おこなわれている(月がずれる場合もある)。

はじめに

「テスト」と位置づけず、 英語力アップの教材として活用

英語学習が2年ほど経過すると、語い力、表現力、コミュニケーション力などさまざまな方向から力がつき始めます。くり返し継続して楽しく学べた成果としてとてもうれしく思います。しかし、同時に学習への意欲の面で、伸び悩む様子もうかがえるころでもあります。この時期の乗り越え方が、その先の英語学習にも影響してくるため、実はとても大切な時期なのです。私も幾度となくこのような時期に直面し、毎回のレッスンに工夫を凝らして試行錯誤をくり返してきました。その工夫のひとつにこの児童英検があります。



笠木えりあ

1994年より、幼児から高校生までを指導。ことばは心の鏡、をモットーに子どもたちにその素敵な「心」を伝える英語力を身につけるよう指導している。

児童英検のブロンズを受けてきた児童にとってレベルをひとつ上げたシルバーは、ちょうど少し背伸びのできる、そして果敢に挑戦する気持ちを育てる前向きな教材としてたいへん適しています。どのくらい英語に対する理解力がついてきたか、どれくらい想像力をもって全体の状況を読みとっていこうとしているか——シルバーを受験することで測ることができます。ブロンズと比べ、語いや会話表現の幅が広がっているの知らないフレーズや聞き慣れない単語に出くわすこともあるでしょう。「このお話をよく聞いていくと、次はこうなるかな、ってひらめいたんだよ」と得意げに報告してくる子どもの姿は、英文に耳を傾け絵を見て想像力をフル回転させ、自分の力でたどりついた結果です。その姿勢やプロセスを大いに評価し、ほめていきましょう。そうすることで新たに、もっと学びたい、もっとわかりたい、というパワーが生まれてくるのです。

ひとつ大事なことは児童英検を「テスト」と位置づけないことです。最近の児童はこの「テスト」という言葉にひどく敏感です。「言葉の学習」は競争ではないし人との比較も必要ありません。評価はあくまでも個人内評価です。教える側の態度ひとつで児童にぐんと自信をつけられるか否かが決まります。一人ひとりのさらなる英語力アップの教材のひとつとして上手に取り入れていってください。

英語学習の段階を 自然に積み重ねていける児童英検

児童英検が生まれて間もない1997年に、はじめて教室で児童英検を実施しました。2003年のリニューアルに伴い、英語力を判定するだけではない、子どもたちの児童期の生活状況や興味や好奇心へのより細やかな配慮がうかがえる内容になりました。英語学習は、継続して学んでもどれくらい力がついたか目に見えません。教室で受験する児童英検は、毎回のレッスンや自宅学習を積み重ねて、英語は楽しいと感じている子どもたちへ「こんなに英語がわかるようになったね、そのまま続けてがんばろうね」と応援してくれる、英語学習の道しるべのような存在になっています。

そして毎回、受験中の子どもたちに共通するのは、緊張しながらも、CDから流れてくる英語に集中する姿です。レッスンでもなかなか見ることのできないその姿は、誇らしいほど輝いて頼もしく感じられます。人の話に心を傾けて、集中して聞こうとする姿勢を育てるものにも映ります。

大人は子どもに何かを学ばせると、すぐに結果を確かめたくなるものですが、児童英検は、子どもたちが英語学習の段階を自然に積み重ねていけるよう、いかに児童期にリスニング力をつけることが大切か、楽しく学び続けることがいかに大きな素地になるか、そんな大切なことを私たちにも教えてくれています。児童英検は子どもたちのこれまでの学習をほめる材料、これからの学習を励ます材料になりますね。

また、子どもたちが挑戦する毎回の児童英検の結果は、指導者への評価でもあります。一人ひとりの結果に見られる英語力の定着度や弱点などに客観的に気づくことができるでしょう。そして子どもたちへの適切なアドバイスができるだけでなく、今後のレッスンの方向性や目標が立てられるありがたい機会になるでしょう。

本書が、児童英検のシルバーを受験する子どもたち、それを応援する保護者、そして指導者の方々へのたっぷりの練習材料になって、お役に立てますようにと願っております。



牧 菜穂

1996年より、幼児から大人までを指導。ひらがなで語りかけるように、ことばを大切に共有する教室づくりを心がける

児童英検「シルバー」受験に向けて

牧 菜穂

1. ブロンズからシルバーへ

●シルバー受験をすすめる時期

英語を学び始めた子どもたちは、ブロンズを受験することで自分の力を試し、それぞれの達成感を味わったことと思います。教室やご家庭でさらに楽しみながら学習を続けていくと、自然とたくさんの力が蓄積されていきます。

そしてその間、再びブロンズに挑戦して、前回より力がついたことに自信をもてる子どももいるでしょう。この、ブロンズ受験の段階よりさらに広く学習を積み重ねてきたと感じられるころに、力試しとしてシルバーを受験するとよいのではないのでしょうか。

達成感は、失敗したり間違ったり、もう一度やってみたりしながら、より大きく感じられるものです。学習を続けていく中で挑戦しようとする、子どもたちの勇気やがんばりを大いにほめて認めてあげながら、結果、子どもたちが「児童英検、楽しかった!」と思えるように、次の段階へと進ませてあげたいですね。

シルバー受験対象者のめやす

- ・ブロンズを受験して、全問題の80パーセント以上を正解できた児童
- ・学習塾などで1年～2年以上の学習経験をもつ児童
- ・小学校の英語活動で2年半～3年半以上の学習経験をもつ児童
- ・文字について1年～2年以上の学習経験をもつ児童

2. シルバーの特徴について

●ブロンズとの違い

ブロンズは、内容が年齢や学習歴に応じた家庭や学校での身近な出来事が中心となり、主語も「I」が主に出題されるのに対し、シルバーは、その内容も、学校生活のいろいろな場面、身近な社会生活へと広がります。

主語も「I」だけでなく、子どもたちのコミュニケーションの相手となるさまざまなものが出題されます。ブロンズに挑戦する段階よりも、形容詞や動詞の範囲を広げて学習することが必

要になります。単に語いの数を増やしたり、文法を説明して教えたりするのではなく、それらを含むたくさん場面や状況を子どもたちの生活状況に合わせて学習内容とし、学習した英語をどの場面で使うかを、実際にロールプレイなどを通して理解させていくことが大切になるのです。そんな力の蓄積が、自然とシルバー受験へと導いてくれると思います。

●どんな力が問われる？

学校や地域社会を場面とした問題が多く出題されるのがシルバーの特徴でもあります。ほかに、英語のレベル、内容の面でブロンズからレベルアップしていることを挙げてみました。ブロンズでは問われなかった力です。

- ・「He」や「She」、「They」といった「I」以外の主語の文章が理解できる
 - ・状態や様子、感情を表す形容詞を使った文章が理解できる
 - ・目的語、補語をともなった文章が理解できる
 - ・居場所を示す前置詞の使い方が理解できる
 - ・2往復以上の会話のやりとりが理解できる
 - ・所有格を使った文章が理解できる
 - ・音と文字のつながりが理解できる
- など

●文字の認識について

ブロンズと大きく異なるポイントに、「音と文字」のつながりを問う、文字の認識があります。「5 はじめはどの文字?」「9 文字をえらぼう」の問題です。

アルファベット26文字のそれぞれには、その名前と音(エイ・ビー・シー／ア・ブ・ク*)があることを理解させましょう。音と文字の関係のルールを学ぶ最適な学習に「フォニックス」があります。10、11ページのチャンツのように音と文字のつながりを声に出したり、視覚教材等で文字と音をつなぐゲームをしたりしていくうちに、音に敏感な子どもたちは自然と文字を認識していきます。アルファベットの音がわかるようになると、「c+a+a+t=cat / d+o+o+g=dog」のように、音の足し算で単語が読めるようになります。自分の力で文字を読めた！と、自信をもてることは、学習の大きな励みになります。

*実際の音はカタカナ表記とは異なる

「シルバー」に適した学習方法

笠木えりあ

1. 単語の学習方法について

●表現力を高める語い範囲

日常生活の体験が広がり、さまざまなシーンでの言語表現が、体験を通して増えてくることが、シルバーに挑戦するのにちょうど適しているころかと思います。使われる単語は、身近な人やものだけでなく、公共施設の名称、そこにあるもの、また、人物やものの性質や状態を表現するような範囲にまで広がります。

シルバーで出題される問題に解答するには、こういった目に見えるものだけにとどまらず、そこから感じとる五感も必要になってきます。そのような「言葉」をいきいきと活用できるよう、普段から表現力を意識してものごとを多角的にとらえていきましょう。

シルバーレベルの言語材料(主な例) *ブロンズの内容に加えて

趣味、スポーツ、余暇に関するもの、店や公共施設、学校施設や学用品、行事やクラブ活動に関するもの、近隣にあるもの、ものの性質や状態に関することば、遊びに関する動作、など

※『児童英検テスト内容ハンドブック』(財団法人日本英語検定協会)参照

●具体的な学習方法について

絵本を活用することをおすすめします。簡単なものから始めて、子どもたちの反応を見ながら、徐々にレベルを上げていくことができます。さまざまな単語やフレーズを、感性豊かな絵とともに楽しみながら学習ができる、ということが絵本の魅力です。児童からの発話を促すよう、絵の中の出来事やものについて質問したり、登場人物について、このときの気持ちはどんな気持ちかな、などヒントを出し推測させたりして、語い力、表現力をつけていきましょう。

2. センテンス理解の学習方法について

●「リスニングクイズ」を活用する方法

語いとともにセンテンスについても、願望や提案、意思を伝える表現が多くなるのがシルバーの特徴です。本書ではそのことを踏まえ、いろいろな表現を聞きとり状況を絵で確認し、理解できるような学習コーナーを設けました。

1ページに4枚の絵があり、CDから1番、2番、3番、4番の4つの英文が流れます。それぞれの英文に合う絵を探し、各絵の右下の四角に番号を書く、というリスニングクイズになっています。まずは、4つの絵をじっくり見比べ、一つひとつの絵の中の特徴や情報をきちんと読みとることが大切です。CDで読まれる情報の中に必ずポイントとなる要のフレーズがありますから、それを落ち着いて聞きとっていけばどこを指摘しているのかがわかってきます。やり終えた問題は絵を見てどんな表現だったか、もう一度アウトプットしてみると再確認できます。

CDを流すときは途中で止めずに、4つの絵のすべての内容を流します。途中で止めたり何度もくり返して聞いたりしてしまうと、とたんに集中力が欠けてきますので、ある程度まとまった英文を聞きとる力を養うためにも、集中してリスニングするという習慣をつけていきましょう。

そして扱われているセンテンスは何度もくり返し覚え、普段の生活の中でも機会を見つけてどんどん声に出して言ってみましょう。このリスニングクイズでとり上げている表現は一例で、たとえば、相手を何かに誘う場合は“Let’s...” “Shall we ... ?” “Why don’t you ... ?”といった表現など、ほかにもいろいろあります。同じことを伝える場合にも、表現はひとつではないということ認識し、バラエティに富んだ表現を聞いたり発話練習したり、あらゆる実際の場面でも使ってみたり、と積極的に英語を使って表現の幅を広げてみてください。

リスニングクイズ① 04

1. 1と2の絵を比べて、1の絵に描かれている人物の行動を2の絵で表現しているのはどれか。
2. 3と4の絵を比べて、3の絵に描かれている人物の行動を4の絵で表現しているのはどれか。

(1) 

(2) 

(3) 

(4) 

1. 1の絵は、1人がパソコンを操作している様子。2の絵は、看護師が子供と話している様子。2. 3の絵は、1人が手を上げて驚いている様子。4の絵は、1人が他の人々と話している様子。

簡単な会話やセンテンスを聞いて、その中にある情報を理解するのがシルバーの特徴でもある